



ふるさと納税について



会派 きずな ● 望月 卓 議員

問 現状の取り組みについて。

答 ふるさと納税出品者説明会の開催や、個別に事業者への訪問を行い、ものづくり企業の製品の出品依頼や体験型の返礼品開発の取り組み、また、市制20周年記念事業と併せ、ふるさと納税のPRやシティープロモーションを行って来ました。新たな返礼品開発は、農産品や工業製品等14件、木材加工品等30件を返礼品特設サイトに掲載したところです。

現在、具体的な運用方法の検討を進めています。新たな戦略的な広告面では、SNSで人気のインフルエンサーが市内の温浴施設や食事処、体験工房での動画発信や、返礼品広告のSNS配信等を実施します。

効果的なプロモーション開発として、湖南市ふるさと大使をお願いしている銀座しのはら店主、篠原武将氏に市制20周年を記念するメッセージ動画として、市内で収蔵できる農作物などを取り入れた食の魅力を市内外に発信する動画を作成しました。

現在、あらゆる手段を通じて発信し、湖南市の魅力と湖南市ふるさと納税を広くPRしているところです。



ひとりに寄り添う手立てを考える



湖南省公明党議員団 ● 副田 悦子 議員

問 公共施設予約システムについて。

答 令和5年7月からサービスを開始し、市内51施設において利用ができます。約1600件の利用者登録があります。各施設のセット条例による管理運営規則により、利用時間や利用料金の支払い方法について統一されていません。Wi-Fi環境の整備やキャッシュレスの導入について調査し、取り組んで行きたいと思っています。

問 投票所の環境改善について。

答 市内28カ所の投票所で車椅子で支障なく入場できるのは20カ所になります。段差などがある投票所のうち7カ所には簡易なスロープを設置するなど可能な限り環境づくりに努めています。有権者の投票機会を損なうこと

がないよう、障がいの有無にかかわらず、全ての人が投票しやすい環境の整備が重要であると認識しています。

投票する際に支援等が必要だと思われる有権者が来場された際には、事務従事者が介助や代理投票の有無について積極的にお声がけをします。また、「投票支援カード」や「コミュニケーションボード」等の取り組みの周知徹底に努めていきます。

問 認知症の正しい知識の普及啓発について。

答 令和2年度から「本人ミーティング」平成19年度から「認知症サポーター養成講座」を開催し、さらに受講された店舗を「認知症サポーターがいる店」として登録・周知する取り組みをしています。周知が広がることで地域の見守り体制が整うと考えています。